

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	平成20年10月9日
作成部署	建設交通部 河川課

事業名	戦川 総合流域防災事業	地区名	宇治市菟道車田～菟道中筋 地内
概算事業費	4,690百万円	事業期間	昭和54年度 ～ 平成35年度
事業概要	当該河川は市街地を流れる都市河川であるが、洪水疎通能力が小さく、現況の治水安全度が極めて低いため、河道拡幅、河道掘削等による改修を行う。(L=1,406 m)		
目指すべき環境像	当該河川は市街地を流れる都市河川であり、特に特筆すべき自然や景観は存在していないが、現状の河川環境・景観の維持に十分配慮した河川整備が必要である。		
関連する公共事業	直轄河川改修事業（宇治川）、京滋バイパス事業、日本住宅公団開発事業		

ガイドライン	主要な評価の視点		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
		選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO2排出量等)	—	当該河川は一部河道際には樹木が存在し、河道内には雑草が繁茂している以外に特に目立った植生はない。また、河川周辺では時折、野鳥の飛来が見られる。改修後においても同様の環境を維持する必要がある。	今後、河川改修時はできるだけ河道際の樹木を残すよう配慮し、やむを得ず残せない場合もできるだけ移植する。また堤防天端、河床のコンクリート舗装はできるだけ最小限にとどめ、現況と同様の植生が回復するように配慮する。	—
	地形・地質	○			3
	物質循環(土砂移動)	—			—
	野生生物・絶滅危惧種	—			—
	生態系	○			3
	その他	—			—
生活環境	ユニバーサルデザイン	—	当該河川は市街地を流れているが、洪水疎通能力が小さく、現況の治水安全度が極めて低くなっていることから、河川改修を実施し、地域の生活環境改善に努める必要がある。また、事業実施に伴い発生する建設廃棄物の低減に努める。また、住宅に近接しているため、工事にあたっては騒音・振動への配慮を行う必要がある。さらに、安全・防犯面への配慮も行う必要がある。	河川改修を実施することにより、浸水被害の解消が期待できる。掘削発生土は埋め戻しや築堤に再利用を図るなど、処分する建設廃棄物の低減を図る。工事にあたっては低騒音・低震動型の施工機械を採用する。管理用通路についてはプライハシーや防犯面への配慮を行う。	—
	水環境・水循環	—			—
	大気環境	—			—
	土壌・地盤環境	—			—
	騒音・振動	○			3
	廃棄物・リサイクル	○			4
	化学物質・粉じん等	—			—
	電磁波・電波・日照	—			—
その他(安全・防犯)	○	3			
地域個性・文化環境	景観	○	当該河川の地域住民からは現況程度の自然と景観は維持して欲しいとの要望もあり、できるだけ現況の環境を改変せずに改修を行う必要がある。	河川改修にあたっては、できるだけ現況の植生を残すよう配慮しつつ、堤防天端は舗装せずに自然植生の再生に努める。	3
	里山の保全	—			—
	地域の文化資産	—			—
	伝統的行祭事	—			—
	地域住民との協働	○			4
	その他	—			—